

# ～小異へのこだわりを捨て、維新実現に協力しよう～

河登一郎

平成維新都民の会に参加してまだ半年余りですが、できる範囲で、なるべく多くの集まりや委員会に参加し、また多くの人達との話し合いを通じて私なりに努力して来ましたし、若干の意見の相違は別にしてよい仲間達と知り合えたことを喜んでいるだけに、最近の都民の会での不協和音が残念でなりません。

以下、今後の運営を含め私見を申し上げます。

1. 大きな方向についての意見は、実質的には驚く程一致していること。

(1) 7/2 の運営委, 7/14 の総会, その前後の FAX/MAIL 等での意見の相違は、表面上かなり大きいように見えるが、

(2) 意見の差は主として手続面についてであり、世直しへの情熱も、現状問題点の認識も、あるべき方向の考え方も、実質的には大きな差が感じられない。

(3) その内容を詳述する必要はないと思うので省略するが、大きな方向としては、

- ① 尾山太郎著「官僚亡国論」の現状認識
- ② 大前研一が一連の著作等で指摘していること
- ③ 学界では斉藤精一郎の「増税なき財政再建」
- ④ 最近では小泉純一郎の「官僚王国解体論」や、日経の一連の社説（行財政改革・ゼロからの出発シリーズ）
- ⑤ 「都民の会」では「理念・戦略委員会」での討議、7/14 総会での山崎さんの動議提案での問題意識、などなど

いずれも方向としては驚くほど、問題意識を共有しているのではないかと。

(4) 「現状維持派」「旧守派」「非民主的」「臭いものにふた」など、感情的な表現にかかわらず、発言内容の実質を冷静に受け止めてみれば、寧ろ殆ど差がないと云うのが私の実感である。

2. 意見の相違の大半は云わば手続面の問題が多いこと。

(1) 「運営委の動議として取り上げるか否か」「議決権があるのか」「動議が有効に成立したのか」「議長が意見を述べる権利の有無」「臨時総会を開くか否か／採決の方

法」などなど、民主的な議決ルールの重要性は否定しないが、我々は手続面に必要以上に潔癖すぎるのではないだろうか。

(2) 明治維新は決して合法的に実現したのではない。昭和維新は敗戦・占領という暴力によって基礎ができた。

平成維新は民主的／平和裡に成功させなければならぬが、本来志を同じくし、協力し合える人達が、手続面での整合性やスジ論に拘りすぎる結果、協力体制が崩れるとすれば、日本の将来にとってこんな不幸なことはない。

(3) 大義の前では小異への拘りを捨て、協力し合いたい。大きな方向としては一致していても、いろいろな「意見」を持ち、個人的な利害で結びついていない集団だけに、小異に潔癖すぎて、目くじら立て合っているのは1人去り2人抜け・・・これでは大事は成就しない。これは「臭いものにふた」とは全く次元が違う。

3. 具体的には今後どうすべきか。

これもあまり難しく考えず、自然体でなるべく多くの人の参加を得て幅広く活動の場を拓いて行くべきである。即ち、

(1) 7/14 の決議は尊重し、

(2) 具体的に行動したい案件毎にチーム（呼称は委員会でもグループでも良い）を作り、

(3) 運営委で一応の討議を経て実行に移す。それぞれ得意の分野で活動する。全員がすべてのチームに参加はできないが、他のチームの活動が自分の考え方と若干異なっても大きな方向が合致していれば、お互い認め合う。

(4) もちろん、現在の会の運営がベストではないだろう。従って、改善案があれば（現状の批判だけでなく）、建設的な提案が不可欠である。重要事項で必要があれば臨時総会を何回開いても良いではないか。

(5) 要は平成維新の実現、世直しの実行である。

小異へのこだわりを捨て、協力しよう。

TEL : 0429-42-9220

FAX : 0429-43-4938